

総合計画審議会 全体会（第1回）会議録

- 1 開催日時 平成22年8月6日（金） 午後1時00分～午後4時00分
- 2 開催場所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席委員 20名
- 4 欠席委員 2名
太田 桂一郎 委員・築地 治久 委員
- 5 当局からの出席者
市長 佃 弘巳・副市長 石井 勇・副市長 原 崇・教育長 佐々木 誠
企画部長 梅原 誠一郎・理事（企画） 植田 基靖
- 6 事務局職員
（伊東市）課長 大川浩・課長補佐 石井裕介・主査 鈴木慎一・主事 太田靖久
（財団法人静岡総合研究機構）谷和実・野村浩司・谷澤智秀
- 7 会議に付した案件
 - (1) 委嘱状交付
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 臨時座長の選出
 - (4) 会長・副会長の互選
 - (5) 審議会の運営について
 - (6) 第四次伊東市総合計画基本構想案の諮問
 - (7) 基調講演
 - (8) 総合計画の概要説明
 - (9) 第四次伊東市総合計画基本構想（諮問案）の説明
 - (10) 質疑応答
 - (11) 今後の予定について
- 8 会議の経過（概要）
 - (1) 委嘱状交付
市長から伊東市総合計画審議会委員の委嘱を行った。（市長が各委員を回り、委嘱状を交付した。委嘱終了後、事務局から欠席委員には後日伝達することを報告した。）

(2) 市長挨拶

○市長

本日は大変暑い中を伊東市総合計画審議会委員として只今委嘱をさせて頂きまして、また、委員就任を快くお引き受けくださいますして厚く御礼を申し上げる次第であります。

ご存知のとおり総合計画というのは、これから先10年間の伊東市の指針であります。委員の皆様におかれましても、これからの伊東市をどういうふうにしていくかということをしっかり考えた中で、責任を持って、その指針を作っていくのが、この総合計画になるわけであります。

忌憚のないご意見を頂く中で、これからの伊東市の将来のあるべき姿、そういう物も是非発言をしていただきたいと思えます。行政も責任を持って、これからもしっかり伊東市を守っていく、その中で、住みよいまちづくり、安全・安心というものも進めていきたいと思っているわけであります。時代の流れが目まぐるしく変わる中で、しっかりとこれからも伊東市が元気で、また、住んでいる人達が過ごしやすい、希望の持てる、将来像のプランニングを一緒に進めていきたいと考えております。

現在、総合計画は地方自治法により、市議会の議決が必要となっているわけですが、国の方でも、各地域の主体性を持った計画を作っていく方がやりやすいのではないかなという方向に今向いているわけであります。そういう状況も踏まえながら、制度を遵守する中で、しっかりと議論していただき、答申を頂いた中で、伊東市としても副市長を中心に、皆様方から頂いた貴重な提言、そういう物もしっかりまとめて、12月の議会の議決を経て、来年度4月からスタートさせていきたいと思っておりますので、皆様方におかれましても、公私ご多忙の中、ぜひ伊東市のこれからの将来のために、ご尽力くださいますようお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

(3) 臨時座長の選出

○事務局

本審議会の開催に当たりましては、新たに選任されました委員の皆様による最初の審議会ということで、条例の定めによりまして、市長が招集させていただきました。この後の運営につきましては会長決定までの間、年長の委員さんに臨時座長を

お願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

○委員 異議なし

○事務局

異議ないようですので、最年長者の太田和男委員に臨時座長をお願いいたします。太田様よろしくをお願いいたします。

(4) 会長・副会長の互選

○太田和男臨時座長

委員の中で年長者ということで、臨時座長に任命されました伊東市社会福祉協議会の太田でございます。会長選任という形の座長を務めさせていただきますので、どうぞ協力お願いしたいと思います。

それでは次第第5に従いまして、会長・副会長の互選を議題といたします。伊東市総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、会長・副会長は委員の互選により決定することになっております。

まず、会長の決定についてご意見を伺います。どなたか立候補、または推薦される方がおりましたら、挙手をお願いします。

○委員

藤原謙次委員にお願いしたいと思います。

○太田和男臨時座長

只今、委員より藤原委員の推薦がございました。皆様方は藤原委員を会長に決定することについて、ご異議ありませんでしょうか。

○委員

異議なし

○太田和男臨時座長

異議なしと認め、会長に藤原委員を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。皆さんの賛同を頂きましたので、会長が決定いたしました。従いまして、会長決定までが私の臨時座長でございますので、これを持ちまして、私は退席させていただきます。

○藤原会長

只今ご指名を頂きました藤原でございます。行政のことに関しましては全くの素

人でございますが、指名していただきました以上、皆様のご協力を頂きながら審議のほうを進めてまいりたいと考えております。

それでは、副会長の互選ということですが、副会長をどなたにお願いしたらよろしいか皆さんにお伺いします。

○委員

女性側からお1人出たらいいかなということで、伊東市女性連盟の鈴木洋子理事長を推薦したいと思いますのですが、みなさんいかがでしょうか。

○藤原会長

只今、委員から女性連盟の鈴木洋子さんをお願いをという話がありましたが、いかがでしょうか。

○委員

異議なし

○藤原会長

異議なしの意見が多数ですので、鈴木さんに副会長をお願いしたいと思います。ご挨拶をお願いします。

○鈴木副会長

只今推薦を頂きました鈴木でございます。会長を助けてこの審議会がスムーズに進みますように努力してまいりますので、皆様ご協力お願いいたします。

(5) 審議会の運営について

○藤原会長

議題6ということで「審議会の運営について」を議題とさせていただきます。運営について事務局より提案がありますので事務局の説明を求めます。

○事務局

会議の公開についてお諮りします。会議につきましては、情報公開の観点から原則公開ということでお願いしたいと思います。

○藤原会長

只今、事務局から説明を頂きました。これにつきましてはよろしいでしょうか。

○委員

異議なし

○藤原会長

異議なしということなので、採用とさせていただきます。

(6) 第四次伊東市総合計画基本構想案の諮問

○藤原会長

続きまして、第4次伊東市総合計画基本構想案の諮問について、市長から諮問を頂く形を取らせていただきます。

【市長が諮問を朗読し、諮問案を会長に手渡す。】

次に、基調講演に移らせていただきます。進行については事務局にお願いします。

(7) 基調講演

テーマ：「総合計画策定の意義」

講師：財団法人静岡総合研究機構 副理事長 谷和実

(8) 総合計画の概要説明

(9) 第四次伊東市総合計画基本構想（諮問案）の説明

(10) 質疑応答

○藤原会長

引き続き、委員からの意見を議題として行います。只今説明がありました総合計画の概要、基本構想諮問案についてご意見を伺いたいと思います。

○委員

今、基本構想案について伺いましたが、これに関しては社会環境の変化に伴う伊東市の課題、また、伊東市固有の課題をよく捉え、隅々まで大変目の行き届いた基本構想案だなと感じました。

その中で私なりにいくつか気がついた点がございます。先程、他の委員からもご質問が谷副理事長に出たのですけれども、基本構想を推進する施策の中で市民参画によるまちづくりというのが書かれていました。市民の参画・参加は今後必須のことだろうと思います。私一市民としても大いに歓迎すべきことだと思えます。ただ、参画を促すための総合計画についての市民との合意形成、参画を促すための意識を

発生させるための装置といいたいまいしょうか、インセンティブツール、そんな何かが考えられないかなということ、またそれに先立つ行政のアカウンタビリティ、20ページに行政情報を積極的に市民に公開するとありますが、アカウンタビリティつまり説明責任というふうに位置づけて、より一層の前向きな市民とのコミュニケーション活動を心掛けて頂きたいなと考えました。それから、まちづくりの推進には参画するのは市民だけではないのではないかという気がします。伊東を定期的に訪れる観光客、あるいは当地の別荘所有者、これは非市民であるわけですが、それらの方々の知恵とか、キャリア、それらの方々の人的ネットワーク、これを利活用するくらいの貪欲さ、そういう視点があってもよろしいのではないかと感じました。

東京ディズニーランドというのがありますが、そのフィロソフィーの一つに「語るな、語らせろ」という言葉があります。ディズニーランドはあまり自らエンターテイメントの楽しさを語りません。来た方がお帰りになってその楽しさを語って、更に遊園者を呼び寄せるという仕組みになっているわけです。観光客も金を落とすだけではなく、伊東を語る、語り部として考えておくべき必要があるのではないかという気がします。

私は当地に転居して今年の11月で5年経ちます。そういう意味では、まだまだ半人前の伊東市民であります。住まいは別荘分譲地と言われる大室高原に住んでおります。大室高原のような別荘分譲地ならではの町中とは異なった多くの課題があります。そのあたりを踏まえながら、皆さんの討議の場に加わらせていただければなと考えております。

○委員

これからの社会、現状でもそうなのですが、人口の減少という非常に大きな問題があります。人口が減っていく中で社会の活力が落ちていく、産業、色々なものが衰退していく、どんどんコミュニティの規模が小さくなっていくというようなことなのではないかと思えます。そういう意味では、かつて伊東市というのは老後住みたいまちということでしたけれども、これからは若い方が留まることが非常に重要ではないかなと思っております。基本構想案の中にも、企業の誘致、新たな観光の育成、新たな産業の創出というのも触れていますけれども、そういうことができればいいなと思っております。

最後に、一般的に企業で“自立”といいますと自分の力で立ちなさいということです。自分で立てないところは市場から撤退しなさい、というような意味合いがありますので、こういう形の中で“自立”という言葉が過剰に反応すると、そういう捕らえ方になるのではないかと感じました。

○委員

基本構想案で気になりましたのが人口問題です。7万人を目指しますという目標はよろしいのですが、少子化という部分だけを伊東のまちはやっていていいのかと。少子化対策として子育て支援は大変大事なのですが、もう1つ、移住化促進といえますか、そういう部分について政策大綱の方にも何も触れられていないので、観光交流の空間を作って交流を盛んにすることによって、移住に繋がってくると。

2007年問題が長らく叫ばれていまして、5年延長したことによって2012年問題に摩り替わっています。この計画が始まって2年目くらいに団塊の世代が大量退職を迎えて、どこか移住先はないだろうか、そういう意味では非常に伊東は優れた自然の資産を持っていますので、その辺りの移住的なことを政策目標として入れてくる必要があるのではないかと感じております。そうしないと本当に6万何千人のまちになってしまって、どんどん範囲が縮小してくるということになってしまうので、それを広げていくのは、いわゆる少子化対策だけの問題ではなくて、外からどのように人を伊東の地域に呼び込むことなんじゃないかなということを感じました。

○委員

総合計画というのは行政側の今後10年の行動宣言（計画）というのと同時に市民に計画実現のための協力参加を呼びかけるものだということ強く感じました。第3次総合計画の資料を拝見しますと、これを市民に読ませる、あるいはこれを読んで興味を抱かせるというのは非常に困難ではないかという気がするわけです。そうした場合に、総合計画を作った時にどうやって市民に周知徹底するかと、これが大きな課題ではないかと思いました。そうすると、分厚い本でなくてイメージだけでもよいので、全体に分かるような資料を作るという試みと、資料を作って「はい、読んでください」と言ってそれで周知徹底されるかということそれも難しいと思いま

すので、これを個別に出向いて行って説明するということも考えなければいけないのではないかと思います。それが興味を抱かせるということだと思います。こちらが出向いて行くかどうかということは、判断すべきところもあるのではないかと思いますけれども、周知徹底するという点につきましては、こちらが出向くくらいのことでも考えなければならないのではと思います。

それと同時に参画ということですが、市民が参加する- オープンにして、市民がこれに意見を述べたいと思ったときには述べられるような機会を作る、そういう仕組みも必要ではないかと思いました。総合計画に限らないのですが、市民に関係する政策について参加する機会を作るという仕組みを作ることも必要ではないかと思いました。これはアカウンタビリティということで、政策形成のプロセスをオープンにして、その中に参加していただくという仕組みを作ることだと思います。実際に出て行ってみると、市民はいろんな意見を持っていますし、なかなか集まれといっても集まらないという現状があると思うのです。ただ、そういう試みをしていかない限り、参画・参加という伊東市が目指すものには、なかなか出来ていかないのではと思います。これと同時に基本計画の中に市民に期待する役割、そういったものも入れる必要があるのではないかと思います。そんなこと押し付けられても困るという考え方を持つ市民の方もいらっしゃるかもしれませんが、この総合計画の中では、市民にこんな役割を期待しているのだというような部分もあっていいのではないかと思います。

○委員

最初に委員の名簿を見たときに、もっと女性が参画しても良かったのではないかとこのことを痛切に感じました。協働ということをは今回は特に強調しているわけですから、そういう意味でも、いろんな団体-女性団体、たくさんあるわけですから、そういうところからも、たくさん参加があると良いのではないかなと思いました。

この計画の中で、27ページと13ページでは“協働”と“共創”と両方の言葉を使っているのですが、もうちょっと分かりやすくなるのではないかと思います。市民と一緒に、共に行うということの大切さというのは常々考えているわけですが、本当に難しいことですよ。その辺が、これからの計画を策定していく上での、また実施していく上での苦勞が伴うのではないかと思います。27ページの

体系の表になっているところがちょっと分からないのですが、13ページの“参画”と“共創”“協働”なのかといったところももちろんありますが、政策大綱と分野別計画、それと、いとう8Kとの兼ね合い- 分野別計画では1-1 地域医療の充実となっていて、これは“やさしさと笑顔に溢れる健康なまち”というところで1というのは分かるんです。その隣に8Kのところで健康1、子育て支援が2となっていて、一番最後の分野別計画では1-1 から1-8 まであるわけですね。・・・8Kと分野別計画・政策大綱、その辺の兼ね合いがどうやって見ていったらいいかなというところもございました。

○藤原会長

今、指摘がありました。女性参画の問題、実は私もあれっと思ったものですから、また皆さんで何かの機会に話しをしたらいいのではと思います。

○委員

まず、人口・高齢化について。高齢化上昇傾向、これと出生率の低下傾向、これは数十年続くのではないかと思っております。0歳の出生の数字を見ますと、22年度が433人、年々出生率というのは下がっております。と同時に高齢化率は1年にだいたい0.9%上がっています。さらに年齢別で見ますと、50代から60代が平均すると1,000人くらいいます。そういうことを考えますと、出生率がこのままであると高齢化率は是正することはできないというような気がします。それと同時に、現在平均寿命が男性79.59歳、女性が86.44歳。これは先日発表になりました。高齢世帯の一人暮らしは資料によりますと、住民登録で6,840世帯。夫婦世帯は20年の資料で3,650世帯、合計10,490世帯が、夫婦あるいは独居世帯、こういう形になりますと、全世帯の30%を超えているというような状況が見られます。いわゆる高齢化率、これは核家族化が相当影響していると思います。そういう形の中から、出生率を上げるにはどうしたらいいか、私は特効薬はないと思うのです。夫婦2人の生活になると子どもを2人、3人産もうという気持ちにはならないと思うのです。これからどういう形をとっていくべきかということ、真剣に考えていかなければならないという気がします。出生率の低下は5ページにもあります。上がっているのは高齢者だけ、あとは全部下がっています。3

2年には既に高齢化率が41%、0.9%ずつ上がっていくと確かにこのような図になります。人口と高齢化率については真剣に考えていかねばならない。

なぜなら、伊東地区には企業がありません。産業がありません。そうすると、外に勤めに出てしまう。それが一つの大きな理由になっていると思います。ちなみに御殿場とか、裾野とか、清水町はまだ高齢化率が20%っていません。というのは、企業が多いところに若者が皆集まる傾向にあるのです。それをどうすればいいかということを真剣に考えて頂きたい。企業誘致あるいは1次産業、3次産業の振興策を国・県に働きかける。そういう中で若者の定着を図る施策を打っていく。

同時に、高齢化に対する福祉策、これも考えなければならぬと思います。なかなか施設に入るのは難しい、空きがないという形で、家で面倒を見ている家庭があると思います。国民年金で入れる特別養護老人ホームを更に推進するということが必要ではないか。と同時に、出生率がいくら低下しているといっても、安定保育なり幼稚園を充実させることが重要であると考えております。

2点目が、まちづくりについてですが、景観がいい、空気がいいということで第二の住みかとして多くの方が郊外に別荘地に住んでおります。しかし年を取るにしたがって体が弱って、病院にも行けない買物にも支障を来たすという状況が出ています。そういう弊害が郊外で出ているのではないかと考えてみると、定住型のマンションを市街地に作ることも必要ではないかなと考えています。そうすれば、市内のクリニックや買物も容易に利用できると考えています。

3点目が伊東湾の活用です。第3次総合計画でも伊東湾については自然の保全、港は生産・物流・海洋・レジャー・災害に対する拠点ということしか記載しておりません。伊豆半島を見ますと、伊東湾ほどいい立地条件の湾はないと思います。伊豆半島をぐるりと見ても、これだけ広い湾はないです。そういうことを考えますと、観光・経済の入り口として伊東の湾というものを利用した方がいいのではないかと。伊東湾には海上自衛隊の艦が相当数入っています。この方たちは夜、伊東に上陸しています。栈橋を作ることで、多くの隊員が上陸できる。そういうことを考えますと、経済効果もあるのではないかと。同時に、栈橋を作るなら、海上自衛隊の保養基地・補給基地にすればいい。生鮮食料品、あるいは燃料、そういうものをここで積みあげれば自衛隊の経費も相当浮くと思います。なにも横須賀まで帰る必要ない。演習してここへ帰ってくるのですから。漁業権もあるかもしれませんが、考え方として

あるのではないかと考えています。これは何も保養基地とか補給基地でなくても、災害支援にも当然必要になってきます。伊東湾にもっと広く目を付け、海の利用を十分考えに入れた方が良いのではないかと考えております。

○委員

この膨大な理想的な計画案という物は、ここ1週間くらい前に頂いて目を通して見たのですが、理想を追うことには素晴らしいのですが現実に果たしてできるかどうかということを考えると、色々な問題が出てくると思います。私のように伊東市シルバー人材センター、静岡県シルバー人材センター連合会をやっていると、もっと具体的に伊東市はどうあるべきかというのを痛切に感じる毎日であります。例えば、この審議会の中でもただ漠然とやっていくよりも、いくつかの分野に分かれて、それぞれの方々がそこに所属しながら意見を出していくという方が、私は意見が出しやすいのではないかと気がします。

私自身、今日の会議に出ましてまず身近に感じたことは、私は経済的な分野-いわゆる企業の誘致から保養所・研修所・その他の誘致、それから盛んに問題になっている人口問題、これは私は大きな疑問が一つあるのですが、私も含め団塊の世代は、大きな老人問題の一つになっているのは事実だと思うのですが、伊東市としてはこの団塊の世代の人々を受け入れることは、果たして利益になるのか負担になるのか、私はいつもそれを考えています。人口を増やして活性化しようと思えば、この団塊の世代を誘致するというのは比較的易しい分野に入るような気がいたします。ただし、これは伊東市の財政を苦しめるものか、逆に潤いをもたらすものか、時々私は質問してみるのが返事は一切頂いておりません。果たして「高齢社会の人口が増えるだけでは、医療問題も含めて伊東市の財政を圧迫するものだ」とお考えなら、これは無理だと思います。しかし、この中にも何か財政にプラスになるような方法があるなら、伊東市の人口推移を考えるとやり方としては比較的やりやすいような気がします。

それから最後に、高齢化問題は、医療問題と切り離すことができない問題です。私は10年ほど前に伊東市の風光明媚というものに惹かれまして伊東市民の1人になったわけですが、現在は、伊東市の在来の市民の方以上に伊東市の市民だと私自身は思っております。その当時一番気になったのは医療問題と交通問題。交通問

題はこれ以上JR伊東線を複線化にしてと言っても、これは無理な話ですから、やはり医療問題。これは今の伊東市の幹部の方々が非常にご協力いただいて、市民病院の完成がほぼ間近に見えてきました。いずれ何年か先にはこの医療問題は好転すると思います。となると、伊東市の今後の経済発展、人口の増加-人口の増加イコール経済発展と私は思っているのですが、先程言った団塊の世代の方々をいかに風光明媚な伊東市に誘致して、皆さんと共に肩を並べて伊東市の繁栄に努力していくという一つの理想を考えると、もし団塊の世代の方々の誘致が伊東市の財政を圧迫するような現実があるのであれば、これは根本的に考えを見直さなくてははいけないと思います。私はいつもこの問題が頭にこびりついておりますので、この機会に何とか伊東市の財政面がどういうふうに影響を持って、どんな将来になるのか、団塊の世代の処遇というものをもう一度私たちに教えて頂ければ非常にありがたいと思います。

微力ながら、伊東市のシルバー人材センター、私が入った頃は400人くらいだったと記憶しているのですが、今は700人に近くなってきました。静岡県全体では約2万5000人の会員、全国では約80万人という大所帯であります。伊東市の縮図のような団体でありますので、何らかの意味でお役に立てると思います。私も一生懸命勉強しますのでよろしくお願いいたします。

○委員

一つお伺いしておきたいのが、市民意向調査で伊東市内にこのまま住みたいという人が、80%を超えているという回答があるのですが、全国の他の地域と比べたら高いのか低いのか。私は極端に高いと思っています。市の総合計画を作るときに、市当局が今までの自分達のまちづくりの方向性にどれだけの自信を持っているかというところにも絡んでくるのかという気がします。自画自賛する必要はないのですが、伊東は良い所なのだよと市民が意識できるかどうかという、そういうものになるためには、このアンケート結果と他の市との比較するようなバックデータがあるとありがたいなというように思っています。

私、危機管理事務局でございますので、本来でしたら防災とか地震対策、そのあたりがテーマになるのですがけれども、総合計画の中では、あまりそういうことに触れられておりませんし、消防ですとか河川整備ですとか、既存の事業の中でスケジ

ルールも決めて淡々とやられていると思いますので、それはそれでよかろうかと思
います。1点お願いがございますのは20ページの【構想の推進（まちづくりを進
めるために）】というのがあります。その【(1) 市民参画によるまちづくり】の一
番下の項目“生活・文化・交流などの拠点として”と、ここの云々がございますが、
危機管理というのは、はっきり言いまして、コミュニティがしっかりしていれば8
～9割は成功すると思っています。どのような場合でも、消防だ、警察だという以
前に、地域の住民がどれだけ協働してそういうことに取り組めるかと、そこがまず
もって重要だと思っていますので、ここらへんにそういう要素を入れていただけ
るとありがたいなと。“自治意識の向上に努めます”という表現も“住民の共同参
画意識の向上に努めます”という方が、この意味ではいいのかなと、これはお願い
であります。

あと1点、全体を網羅して重点施策を“いとう8K”としているのですが、伊東
市内の有名観光地が“伊東八景”なんですよ。“いとう8K”と“伊東八景”と
2つあると、聞く方が混乱するという気がしますので、ここは知恵の使い方かな
という気が致しました。

○委員

半月くらい前に、伊東の地元新聞にこれから先の人口減少社会という、今日こ
こにあるような数値が出ていました。伊東市の人口は私の感覚で言うと、7万5千
人を切って7万4千ちょっとあるということを常々思っているのですが、この表で
見ると、今は7万2千くらいがピークで減ってきていると、それで最低6万6700
人と。この辺りの数字のあり方というのが結構大きいのではないかと感じており
ます。人口も、外国人の方を含むとどうで含まないとどうだと、色々なことが
あるものですから、数字を出すときはもう少しきちっとして欲しいということ
を事務局にお願いしたいです。

○委員

統計データをベースにして、今の市の現状はこうだから、10年後こうあり
たいなという方向性が示されていると思うのですが、数字の見方という問題によ
って随分解釈が変わる部分が出てきかねないのではないかという気もするわけ
です。例え

ば人口問題は散々取り上げられてきていますが、7万人を目標としますと。減少ということに関しては、伊東市だけの問題ではないですよ。日本全体の問題です。そうすると、日本国内全ての自治体が共通の問題として抱えていることになります。伊東市だけが人口増、あるいは人口維持を図っていこうということについては、どれくらいの信憑性のある目標になるのかということがあると思うのです。ですから、類似自治体の比較データがあって、その自治体においてはどのような総合計画目標を持っているのかという、客観的に比較評価が出来るようなデータが審議会で提示されていけばいいのではと考えております。

○委員

物事がこういうことから始まって、こういうプロセスを踏んで最後こうなるのだということ、最初に説明していただくと非常に流れが分かりやすい。市主催の会議の委員を頼まれる際は、この部分が不足しがちなのですが、今回はきちんと説明がなされ、自分がどの部分に携わっているかということ、明確に理解しながら参加できています。

それから、企業の誘致について、裾野や御殿場で企業がたくさんあって、という話がありましたが、それは流通面で環境的にそのようなことができやすいという要素がありまして、逆に伊東は弱みのところにもありましたが、交通においては非常に不利なわけで、そこを整備していくと言っても、非常に困難なことだと思います。ですから、来るのを待つのではなく、こちらから情報発信をしながら、相手に対し伊東に興味を持たせるというような仕掛けをもっと作るというのではないかと思います。高齢化が進むのであれば、若い人たちを取り組むような仕組みづくりをしていく必要があるのではないかと思います。

最後に、安全・安心のまちづくりということで、最近伊東でも外国人が増えて、外国人による犯罪も増えています。また、別荘地では別荘荒らしが絶えません。警察もここの取締りができなくて困っています。カメラを設置するなどをしていかないと、せっかく伊東に来ていただいても、ここは危ないからもう出て行こうということで、事実出て行かれた方も何人か聞いております。そのようなことを視野に入れて細部に及んでいくというのではないかと思います。

そして最も私が大事だと思っているのは、最終的にはそのまちは、そこにいる人

たちが決めていく。人づくりは一生の課題としてやっていくべきだと思いますので、伊東市民の“民度”を育む努力といったことを具現化して進めていただくとありがたいと思います。

○委員

今回の計画のキャッチフレーズ『ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いう』ということで、場合によっては「いう」の文字が無くてもすぐに伊東市がイメージでき、分かりやすいと思います。また、キャッチフレーズというものは、このように、専門家だけでなく一般市民の方の頭に残るものでないと定着しないのかなというように思います。また、8Kというのも分かりやすく整理してあると思います。場合によっては資料がなくても議論できるのかなと思った次第であります。プロセスとして、市民会議やアンケート等を活用して、こういう物を作られたということではありますが、計画策定後、市民がどのように関わるのかということをご教示いただければと思います。

○委員

私は前回の総合計画に携わった関係で実施計画が毎年度検証・再評価されているということは、良いことだと思っております。今回の総合計画策定案は市民の声を反映させるための未来づくり市民会議や市民意向調査、アンケート等色々な結果を踏まえて策定してあるということで、ある程度の評価ができると思います。

一番気になることは8Kの子育て支援の箇所、地域社会で子育てを応援していくということについてですが、子育ての支援をしていくということは、人口減少を止める方向にいくのかなと思っておりますが、一口に子育てといっても大変難しいことで、どんな形で実施していったら良いか、この会議で煮詰めて検討していった方がいいのでは、と一番関心を持っています。

○委員

市民アンケートを取って市民の声を反映させている、それから庁内の会議を数回にわたって行われて大変きめ細かなプランになっているなと感じました。しかし委員さんの中でいろんな意見を持っているわけですから、その意見を真摯に受け止め

て、より良い総合計画ができればいいなと思っています。

○委員

10年経ったときに港に船が何杯残っているのかなと、漁師が何人残っているのかなというような問題もあります。漁協で「いとう漁協直営漁師めしや 波魚波」をやるというのは地域の活性化を含めて、伊東で揚がった新鮮な魚を観光客に食べてもらいたいということで、魚食普及を目的に、役員を含め、皆でやっていこうと考え出しました。これから10年で、漁村はどの程度生き残っているのか。高齢者・後継者問題も含め、漁協もこれまでとは違う取り組みを色々しておりますので、皆様にもご協力をお願いしたい。

○委員

教育委員会では子どもが自分自身を肯定する心を作っていこうということを重点として今、教育長と共に教育委員みんなで取り組んでいます。それを広げて、郷土の肯定・郷土愛ということで、資料の“80%以上が伊東に住みたい”と思っような郷土を肯定するよう気持ちを持ち、その気持ちが何かアクションを起していく。(1人の女性が立ち上げた野菜の直売所が今では大盛況である千葉の例を挙げ) 今後は海が非常に大きな産業になるだろうと思うし、そういう物を含めた起業も、この土地を肯定していくという意味で仕上げていけば、いい方向になっていくだろうと思います。

ただ、第3次総合計画の検証が事業費の執行率となっているのですが、どこが出来たか、どういうことが問題だったのかという点を第4次計画に活かしていくという、このような繋がりを持ってもらえればな、と思います。「この点が非常に問題あったからこの点はクリアしたい」、あるいは「ここが非常に効果があった」と、こういった部分を活かしてもらおうと私たちも議論しやすいと考えています。

それから市のことばかり言っていますが、周辺の市町との繋がりというものも見逃していくわけにはいかないと思うのです。伊東市単独で何かができるものばかりじゃない、繋がりが無いとできないということを考えると、他市とのつながりということもこの計画の中で、市内だけでなく市外も少し考えていきたいと思っております。

○委員

総合計画の大きさや広さに、今の段階ではまだ意見を言えるところまで辿り着いてはいません。逆に、一般市民に一番近く、数少ない女性でもありますので、次回から意見を述べられるよう、私自身勉強しながら参加させて頂きたいと思います。

○委員

限られた短い時間なので、とりあえず産業経済の分野だけに絞って、発言させてもらいます。地域にある企業が生き活きと活動することが、まちの活力の全ての淵源だと思っているわけです。でないと、そこから雇用や人やお金の流れは生まれてこないわけですから、税収も当然そこから生まれません。地域・企業・産業・経済が生き活きあるためにはどうしたらいいのかということが、ここに色々掲げられている政策目標ということであると思います。

人を含めた地域資源を丁寧に一つ一つ検証していくことが大事だと改めて思っています。例えば、伊東は温泉が有名ですが、温泉の湧出量で考えると静岡県で1位、本州で2位、全国で4位ということを市民の皆さんが意外に知らないという気がします。伊東にこれだけの地域資源があるということを市民の皆様にも知っていただければ、そうした中から色んな知恵もたくさん出てくる気がします。生き活きた活動ということの中で言えば、次の世代を担う若者の雇用があるわけですが、伊東の人口問題- 特に出産問題に直結することでもありますし、あるいは新たな産業ということ言えば、谷さんのお話にもあったと思いますが、1つの技術・1つの装置が新しい産業のチャンネルを作る突破口になる可能性は伊東でも当然ある気がします。ここで政策目標として掲げられている一つ一つのことの検証を丁寧に進めていくとともに、冒頭に掲げられているキャッチフレーズの達成を目指していくことが大切だと思いました。

○委員

総合計画や基本構想というと非常に抽象的で希望的な表現が多くなってしまいう中、今回の第4次総合計画については、かなり具体的なものになっているというように感想を受けました。ただ、重点施策の項目によっては、具体的に進める上にお

いて、模範的な回答があるわけではない、10年先が分かっている人がいるわけではないという中で、そういったものを策定していくのは非常に難しいとは思いますが、なるべく具体的な指針を模索していくことを心掛けたいと思っています。また、これらの重点施策を実施する上においては財政運営・行政運営- こちらでは重点施策の8で改革と書いてありますが、改善を積極的に進めなければ、全ての施策の展開というのは容易にならないのではないかと思います。

○委員

企業そのものが10年後どうあるべきかということの下に、一つのビジョンを作って、10年先を見て、例えばこの3年間、3か年計画に掛かると。一つの作った夢- ビジョンの中をどこまで持っていくかが当座の計画であるということであれば、行政も同じことが言えるのかな、当座は具体的に何から掛かるのかということをも明記していく必要があるのかなと感じました。

○企画部長

今後の審議会につきましては、委員の皆さんが述べられた意見を具体的に、諮問案のこの部分にこのように表現していったらどうかという議論を2回目からお願いしたいと思っています。皆様のご意見等を諮問案に追加したり、修正したりして、今後答申案に結び付けていければと考えております。先程、委員さんからありました関係につきましても、個々事務局の方で改正・修正を加えていきたいと考えております。それから、分科会形式にしたらどうかのご意見もありましたが、これにつきましても第3回を終わったところで専門部会という形で2回ほど開催したいと考えています。

○藤原会長

事務局につきましても今日の委員の皆さんの意見をしっかりと取り入れた中で、これからの対応をお願いしたいと思います。

(11) 今後の予定について

○藤原会長

続きまして「今後の予定について」を議題にします。

○事務局

今後のスケジュールについて説明します。第2回審議会を8月30日の月曜日、13時から開催したいと考えています。会場は市役所の低層棟2階中会議室です。開催に際しては、資料【基本計画のイメージ】の基本計画を次回に諮問いたしまして、具体的な基本計画を見ながら構想の審議に入れれば、より中身の濃い審議になるのかなと考えておりますので、基本計画を諮問できるよう鋭意努力していきたいと考えております。

次回の予定としましては基本計画の諮問をさせていただきまして、審議としては基本構想の具体的な審議に入る形を考えています。

基本構想と基本計画の諮問の審議につきましては、今後スケジュールを調整しながら、9月中に第3回全体会、10月に専門部会、第4回審議会を経て、11月中に答申を出せるように事務局として努力していきます。8月中に基本計画の諮問案をまとめました後、市のホームページ等で諮問案につきまして市民の方から意見を頂くことを考えておりますので、そこで頂いた市民の皆様の意見を審議会に資料として提示させていただきながら、今後審議を進めていけたらと考えています。1～3月までに周知方法の工夫について会議で提案させていただきながら市民への周知を行い、4月から新たな計画をスタートさせたいと考えています。

○藤原会長

今後の運営につきましてご意見等ありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

○委員

全体の構想の中で確かに人口は全国的に減少傾向にあることは分かるのですが、伊東の場合はまだ余裕があるのではないかと考えています。観光を中心にしてきたこのまちづくりの中では難しいけれど、伊東において新しい産業を考えなければならないのではと感じています。この基本構想の中に“介護”という言葉が3か所しか出てきません。福祉分野・介護分野をもっと直視する必要があるのではないかと考えています。残念ながら今のこの構想では、その分野をあまり重んじていないから、色々なものが少なくなっているというように思います。委員の皆さんにぜひ色々な意見を出していただければ、かなり大きく話が変わっていくのではないかと考えて

います。このことがもっとクローズアップされれば第1次産業や第2次産業、あるいは今ある観光のことも含めて大きく変わるのではないかと考えていますから、8月末の会議までの間に事務局も含めて検討していただきたいと思います。

○藤原会長

第1回目の審議会につきましては以上をもちまして閉会とさせていただきます。

以 上